

愛知県英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

令和3(2021)年度英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行う。

小学校○目標1 学習到達目標の整備状況の改善 **重点目標**

2021年度は公表が15.7%、であり、達成状況の把握が51.6%であり、目標値に向けて、設定した学習到達目標を学校や児童、保護者と共有し、指導や評価へ生かすことが課題である。2022年度には、公表、達成状況の把握ともに80%を目標とする。

○目標2 小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の向上

2021年度に実施した教員採用選考試験(2022年度採用)から、第一次試験加点項目を新設し、小学校教諭受験者のうち、英語準1級などの英語力を有すると認めた受験者を加点対象とした。その結果、168名から加点申請があり、一定の英語力を有する小学校新規採用者の増加につながった。

中学校○目標1 学習到達目標の整備状況の改善 **重点目標**

2021年度は公表が24.5%、達成状況の把握が45.4%であり、2019年度より大幅に改善されているが、まだ十分ではない。設定するだけでなく、学校や生徒、保護者と共有し、それを指導や評価へ生かすことが課題である。2022年度には、公表、達成状況の把握ともに80%を目標とする。

○目標2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合の向上 **重点目標**

2021年度は51.9%であり、2019年度を下回っている。2021年度より実施された新学習指導要領の趣旨を踏まえ、言語活動を中心に据えた授業改善が課題である。2022年度は90%を目標とする。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善

2021年度はスピーキングテスト3.8回、ライティングテストが2.4回と上昇している。ライティングテストについての事例を増やすこと、パフォーマンステストの評価を学習到達目標の達成状況の把握へ生かすことが課題である。2022年度は学校においてパフォーマンステストを年間8回以上実施することを目標とする。

○目標4 英語担当教員の授業における英語使用状況の改善

2021年度は46.6%であり、2019年度を下回っている。2021年度より実施された新学習指導要領の趣旨を踏まえ、言語活動を中心に据えた授業改善が課題である。2022年度は90%を目標とする。

○目標5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

2021年度のCEFR B2レベル以上の英語力を有する中学校教員の割合は31.1%であり、低い状態が続いている。教員の英語力向上に対する意識を高めることが課題である。2022年度は50%を目標とする。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

2021年度のCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は32%であり、低い状態が続いている。外部試験の受験機会が少ないこと、英語担当教師による見取りが十分でないことが課題である。2022年度は50%を目標とする。

高等学校

○目標1 学習到達目標の整備状況の改善

2021年度の調査では、すべての学校が学習到達目標を設定している。公表については32.0%、達成状況の把握については45.9%であり、前回調査より増加している。2022年度には、40%の公表と、60%の達成状況の把握を目標とする。

○目標2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合の向上 **重点目標**

2021年度の調査では、授業における生徒の英語による言語活動の割合が50%以上である教員は33.4%であり、前回調査より減少している。2022年度は50%を目標とする。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善 **重点目標**

2021年度の調査では、スピーキングテスト1.1回、ライティングテストが1.6回であり、前回調査より増加している。2022年度はスピーキングテスト及びライティングテストを各科目において年間3回以上実施することを目標とする。

○目標4 英語担当教員の英語使用状況の改善

授業における発話の50%以上を英語で行っている教員の割合は33.8%であり、前回調査より減少している。2022年度は50%を目標とする。

○目標5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合の向上

2021年度の調査では、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する高校英語教員の割合は、全体の69.8%であった。2022年度は70%を目標とする。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

2021年度の調査では、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると考えられる生徒の割合は、全体の39.2%であった。2022年度は50%を目標とする。

(2) (1)の目標を達成するための取組(施策の全体像と具体的な計画)

<目標を達成するための具体的な手立て>

小学校

○目標1 学習到達目標の整備状況の改善 **重点目標**

- ・ 愛知県版CAN-DOリストを活用し、CAN-DOリスト形式の学習到達目標公表や達成状況の把握について、その具体を示す。
- ・ パフォーマンステスト事例集を活用し、パフォーマンステストを含めた学習評価をCAN-DOリスト形式の学習到達目標の達成状況の把握へ生かすこと示す。
- ・ 各種研修等を通じて、上記の資料を活用した年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DOリスト形式での学習到達目標の達成状況の把握を推進する。

○目標2 小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の向上

- ・ 2022年度実施の教員採用選考試験においても、引き続き「小学校英語」の加点項目を設け、一定の英語力を有する者の人材確保に努める。また、受験者の状況・加点項目等について分析・検討し、中学校英語免許を保有する小学校新規採用者を増加させることも含めて、手立て・方策について検討し、英語力を有する人材の確保に向けて取り組む。
- ・ 教員採用選考試験に向けた大学説明会や大学担当者説明会において、CEFR B2レベル以上の英語力を有する者を求めていることを伝える。

中学校

○目標1 学習到達目標の整備状況の改善 **重点目標**

- ・ 愛知県版CAN-DOリストを活用し、CAN-DOリスト形式の学習到達目標公表や達成状況の把握について、その具体を示す。
- ・ パフォーマンステスト事例集を活用し、パフォーマンステストを含めた学習評価をCAN-DOリスト形式の学習到達目標の達成状況の把握へ生かすこと示す。
- ・ 各種研修等を通じて、上記の資料を活用した年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DOリスト形式での学習到達目標の達成状況の把握を推進する。

○目標2 生徒の授業において英語による言語活動時間の割合の向上 **重点目標**

- ・ パフォーマンステスト事例集を活用し、ALTを活用した授業における言語活動の設定について、その具体を示す。
- ・ 総合教育センターや教育事務所と連携し、研修や学校訪問等の機会を通じて、上記の資料の活用や個別の具体的な改善方策等を伝える。
- ・ 県内12地区の県立高等学校や学区の小学校と連携して、各学校の英語担当教員の情報交換

や交流を図り、授業改善を目指す。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善

- ・ パフォーマンステスト事例集により、スピーキング・ライティングテストの活用モデルを提示する。
- ・ 各種研修等を通じて、上記の資料を活用した授業改善を進める。
- ・ パフォーマンステスト事例集を活用し、パフォーマンステストを含めた学習評価をCAN-DOリスト形式の学習到達目標の達成状況の把握へ生かすこと示す。

○目標4 英語担当教員の授業における英語使用状況の改善

- ・ 総合教育センターや教育事務所と連携し、研修や学校訪問等の機会を通じて周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。
- ・ 各種研修を通して授業を参観したり、英語を行う授業づくりを体験させたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業のさらなる推進を図る。
- ・ 県内12地区の県立高等学校や学区の小学校と連携して、各学校の英語担当教員の情報交換や交流を図り、授業改善を目指す。

○目標5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合の向上

- ・ 各種研修会等を通じて「特別価格による外部検定受験制度」の更なる活用を促し、受験を推奨する。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

- ・ 生徒の外部検定試験等の受験を啓発・推進する。
- ・ イングリッシュキャンプやイングリッシュ1Day ツアーの実施等を通して、国内における異文化体験を推進する。
- ・ 各種研修等を通じて、年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DO リスト形式での学習到達目標の達成状況の把握を推進する。

高等学校

○目標1 学習到達目標の整備状況の改善

- ・ 外部機関の有識者等が指導力向上研修兼拠点校連絡協議会で先進的な取組事例等を紹介し、学習到達目標の改訂、授業改善及び評価の工夫改善を推進する。
- ・ 拠点校は、主管する地区別授業研修で地区内の高校等に、指導力向上研修兼拠点校連絡協議会での先進的な取組事例等を伝達する。
- ・ 県が示す年間学習指導計画の様式例を改訂し、各学校のCAN-DO リストの能力記述文を記載する欄を設けることとした。

○目標2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合の向上 **重点目標**

- ・ 指導主事等が学習指導要領の趣旨や評価方法について、教育課程愛知県協議会で各校英語科の責任者等に説明し、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの更なる推進を図る。
- ・ 拠点校を取りまとめる学校は、指導力向上研修兼拠点校連絡協議会において、外部機関から有識者を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やパフォーマンステストについての指導助言を受け、参加する各拠点校における授業改善及びパフォーマンステストの更なる推進を図る。
- ・ 拠点校が、地区別授業研修を開催し、当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定することにより、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの推進の一助とする。
- ・ イングリッシュ・フォーラムにおいて、拠点校の代表校が、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの推進成果を発表する。また、生徒の授業における英語による言語活動の成果発表の機会とする。
- ・ 総合教育センターや義務教育課等と連携し、本重点目標について、研修や学校訪問等の機会を通じて、学校長及び英語教員に周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。

- ・ 「平成30年度教育課程課題研究指導事例集」を活用し、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの更なる充実を図る。
- ・ 教材の共有、指導計画や評価方法の周知などにおいて、令和4年度に配備予定の生徒一人1台タブレットを活用するとともに、その効果的な実践例の共有に努める。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善 **重点目標**

※「目標を達成するための具体的な手立て」は「目標2」のものと共通

○目標4 英語担当教員の英語使用状況の改善

- ・ 地区別授業研修において、教員が授業を参観したり英語で行う授業づくりを体験したりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業改善の更なる推進を図る。また、当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定することにより、各学校における授業改善の一助とする。
- ・ 本県では、学習指導要領改訂や高大接続改革の趣旨を踏まえた探究的な学習を推進するために、県立高校12校の主管校において、「主体的・対話的で深い学びの推進」をテーマとした研究開発を行う「あいちラーニング推進事業」を実施している。主管校の研究報告書等を通じてその成果を広く普及・還元し、主体的・対話的で深い学びの推進を英語による発話で実践する上での一助とする。

○目標5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合の向上

- ・ 英語教育指導者研修の参加者が校内研修等を通じて研修の成果を普及することによって、英語科教員の英語力の段階的な向上を目指す。
- ・ 各種研修会等を通じて「特別価格による外部検定受験制度」の更なる活用を促し、受検を推奨する。
- ・ 教員採用試験に向けての大学説明会や大学担当者説明会において、英検準1級などの英語力を有する者を求めていることを伝えていく。
- ・ 先導的なオンライン研修実証事業（中・高等学校教員プログラム）への周知を図り、教員が専門性を磨くことのできる機会を提供する。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

- ・ 地区別授業研修において、生徒の言語活動を中心とした授業の更なる推進を図り、生徒の英語運用力の向上を目指す。
- ・ イングリッシュ・フォーラムを生徒の授業における英語による言語活動の成果発表の機会とする。
- ・ 高等学校教育課程課題研究班で適切な評価方法の研究を行う。
- ・ イングリッシュキャンプやイングリッシュ1 Day ツアーの実施等を通して、国内における異文化体験を推進する。
- ・ 本県知事部局国際課と連携し、本県の友好都市等であるタイ・バンコク都、中国・広東省、韓国・京畿道の高校生等とのオンラインを含めた学校間交流等を通して、国際的な視野のかん養を図るとともに、海外からの留学生・派遣団の受け入れなど、海外交流を推進する。

<英語力指導力向上に係る研修等>

次に挙げる研修等を愛知県教育委員会が主催し、実施する。実施方法については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、対面で実施することを想定しているが、感染拡大の状況によっては、必要に応じてオンラインでの実施や動画の配信などを用いることとする。また、運営にあたっては、別に定める「県立学校における働き方改革ガイドライン（愛知県教育委員会 2021年5月策定）」を踏まえ、業務の効率化や負担の平準化に配慮する。

小・中学校

1 英語教育担当主事会

(1) 研修対象者

教育事務所・市町村教育委員会担当指導主事

(2) 研修目的・内容

小・中学校外国語における教材の活用や指導方法について、その普及のための研修の具体を提示することで、各市町村において「指導と評価の一体化」を目指した研修の実施を促進する。

2 小・中学校外国語科研修

(1) 研修対象者

小学校教員及び中学校英語担当教員

(2) 研修目的・内容

大学等の外部専門機関及び英語教育推進リーダー等を講師に招き、コミュニケーション能力を育む授業づくり及び小・中学校外国語における教材の活用や指導方法について、講義及び研究協議を通して学び、指導力の向上を図る。

3 愛知県小中学校教育課程研究集会

(1) 研修対象者

小学校教員及び中学校英語担当教員

(2) 研修目的・内容

学習指導要領の趣旨を見据えた実践事例を基に、指導方法や学習評価等、実施に伴う指導上の諸問題について小・中学校合同で研究協議を行うことにより、学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善の推進を図る。

高等学校

1 教育課程愛知県協議会

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科の責任者（教科主任等）1名

(2) 研修目的・内容

各学校における授業改善やパフォーマンステストの更なる推進を目的とし、指導主事等が学習指導要領や評価について、各校英語科の責任者に説明する。

2 指導力向上研修兼拠点校連絡協議会

(1) 研修対象者

拠点校を取りまとめる高等学校英語科教員、拠点校及びあいちグローバルハイスクール指定校の英語科の責任者1名

(2) 研修目的・内容

外部機関の有識者等が指導力向上研修兼拠点校連絡協議会で先進的な取組事例等を紹介し、学習到達目標の改定や評価の工夫改善を推進することで、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの更なる推進を図る。

拠点校等でのALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動やパフォーマンステストの具体的な事例を示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。

小・中・高等学校

1 地区別授業研修

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科教員1名及び小、中学校の英語担当教員

(2) 研修目的・内容

各学校における授業改善の一助とするために、当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定する。

学習到達目標の改訂、授業改善及び評価の工夫改善を推進するために、拠点校は、主管する地区別授業研修で地区内の高校等に、指導力向上研修兼拠点校連絡協議会での先進的な取組事例等を伝達する。

各学校における授業改善の更なる推進を図るために、外部機関から有識者を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やALTやICTを活用したパフォーマンステストを紹介する。

教員が授業を参観したり英語で行う授業づくりを体験したりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業の更なる推進を図る。

2 イングリッシュ・フォーラム

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科教員1名及び小、中学校の英語担当教員

(2) 研修目的・内容

拠点校の1年間の取組等の成果を、県内の小・中学校及び県内全ての県立高等学校に普及・還元することを目的として、全体発表会と分科会を実施する。12地区それぞれの代表生徒1名が発表テーマをSDGsのゴールと関連付けて英語によるポスターセッション(分科会)を行い、拠点校の英語科教員及び該当地区の英語教育推進リーダーが指導・助言にあたる。また、当日参加できない生徒は、SDGsのゴールに発表テーマを関連付け、同世代に対する提言を5分程度の発表動画にまとめ、提出することもできる。

<年間事業計画>

月	小・中・高等学校	校種別
4月		
5月		
6月	地区別授業研修	
7月	↓	
8月		愛知県小中学校教育課程研究集会 教育課程愛知県協議会(高等学校)
9月		
10月		
11月	↓	英語教育担当指導主事会(小学校・中学校)
12月	イングリッシュ・フォーラム	小・中学校外国語科研修 指導力向上研修兼拠点校連絡協議会(高等学校)
1月		
2月		
3月		

(3) (2) を実施する体制の概要



